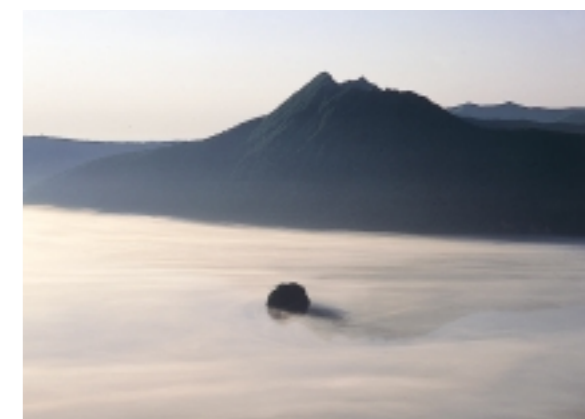


摩周湖はかつて透明度41.6mを記録し、世界一を誇ったが、今は約30mとなっている。プランクトンが非常に少ないが、大正時代にヒメマスやニジマスが放流されたことから、現在ではわずかながら魚が生息している



カムイッシュ（アイヌ語で神様のような老婆と呼ばれる中島は、一面雑木林に覆われている。湖表に出ている部分はわずか31mだが、そこから湖底に向かって円錐状の山のような形になっている

冬でも摩周湖には霧がかかることもある。零下20度以下の気温に冷やされた樹枝は濡れると瞬時に凍り樹氷が出来る。それが発達して昇華したものが樹霜だ

摩周湖

感動の朝焼けと、儂い霧氷。摩周湖の魅力は尽きない。

摩訶不思議な摩周湖が、多くの人を魅了し続けている。その最大の魅力は「霧」である。

霧は、暖流と寒流がぶつかる釧路の海上で誕生する。そして暖かい空気を求めて内陸へと流れ込み、釧路湿原から根釧原野を渡って、摩周の湖面へたどり着く。霧が絶え間なく入り込み、またたくまに湖全体を霧で包み込んでしまう。「これがよそ者の霧」と、地元の人は言う。

これとは別に「自前の霧」もある。カルデラ内の暖かさと湖水の冷めたさとの差が激しい時、水面をほうような霧が生まれる。この霧はおとなしいが、よそ者の霧は、湖面で暴れだしたり、カルデラの外へ出て、網走方面へ逃げていく。変幻自在のまるで生き物のような霧の妙味が、見る人の心をとらえて離さない。

もうひとつの感動が、光に彩られる摩周湖。氷が解け始める4月ころから10月初旬までの朝焼けが最も素晴らしいと言われている。第三展望台から望むと、まだ眠っている摩周湖の向こうに確かな曙光が現れ、たちまちのうちに摩周岳の稜線に沿って朝陽が昇っていく。



周囲20km、平均水深は145.9m、最大水深212mのカルデラ湖。海拔351m、湖底の高さは139mで、川湯温泉街より上に大きな水瓶があるのである



【摩周湖の環境保全の取り組み】 摩周湖と同湖を取り巻く周辺一帯の環境を良好な状態を保ちながら次世代に継承するといった取り組みをはじめます。この取り組みを通じて、世界的にも貴重な摩周湖周辺の環境を、次の世代により良い状態で継承していきます。